

## ● 清川泰次芸術館・市民ギャラリーの概要

浜松市出身の美術家『清川泰次(ぎよかわ たいじ)』氏の作品を約300点収蔵展示する芸術館。清川氏は、色と線、面だけで構成された独特の作風『無対象純粋芸術』で知られ、世界的に活躍したアーティストです。作品は、ニューヨークのグーゲンハイム美術館など多数の美術館で永久保存品となっています。

芸術館は、清川氏が「風光明媚でモダンな御前崎の雰囲気」が作品のイメージとマッチする」とこの地を選び、館の設計も自ら手掛けて建てられました。シンプルなおしゃれな館内には、油絵を中心にオブジェなども展示され、清川氏の制作の歴史を伝えています。また、平成23年4月に館内の一角に開設しました市民ギャラリーは、市民の創作作品の発表の場として利用できます。

## ● 展示内容

- ・ 創作作品(絵画、彫刻、工芸、書、写真等)。
- ・ その他教育委員会が認めた物とします。

## ● 利用対象者

- ・ 個人の場合は市内に在住又は在勤している方。
- ・ 団体の場合は、主催者又は団体事務所の住所が市内にあり、かつ、主に市内で活動している団体。

## ● 展示期間と開館時間

- ・ 原則として2ヶ月以内(土・日曜日のみ)で主催者は利用期間中に在駐し、作品の管理を行って下さい(年末年始は休館)。
- ・ 開館時間は午前9時から午後4時まで。

## ● 利用料

- ・ 無料(但し企画展に係る経費は主催者が負担するものとします)。

## ● 利用申込の方法

- ・ 利用許可申請書は御前崎市教育委員会社会教育課窓口にて、使用6ヶ月前から申込みできます。

## ● 備品

- ・ 長机5台・椅子4脚・展示フック400
- ・ ピクチャーレール用ワイヤーフック60(その他必要な物は主催者が用意してください)

## ● 展示スペースの規模

- ・ 市民ギャラリー1 (43㎡)
- ・ 市民ギャラリー2 (14㎡)
- ・ 市民ギャラリー3 (14㎡) 合計(71㎡)



- JR 御前崎駅から徒歩15分「浜岡営業所」行きで約30分、終点下車、御前崎市自主運行バス「御前崎海洋センター」行きに乗り換え約30分、終点下車、徒歩5分
- 車：東名「相良・牧之原IC」より国道473号・150号バイパス経由で約40分、ヤマシの水通りを抜けて碑の先端の信号機(下碑)を右折し、600m程を直進、坂道を登って直進500m、左にある三角屋根の建物です。



交通のご案内

437-1692 静岡県御前崎市池新田5585番地  
TEL 0537-29-8735  
前崎市教育委員会 社会教育課(午前8時15分～午後5時(土・日・祝日を除く))

市民ギャラリー利用の問合せ・申込先



午前9時～午後4時

開館時間

(但し、12月29日～1月3日の間は休館)

毎週土・日曜日

閉館日

無料

入館料

0548-63-6966

電話

静岡県御前崎市御前崎4-5-31

〒437-1621

所在地

見学案内

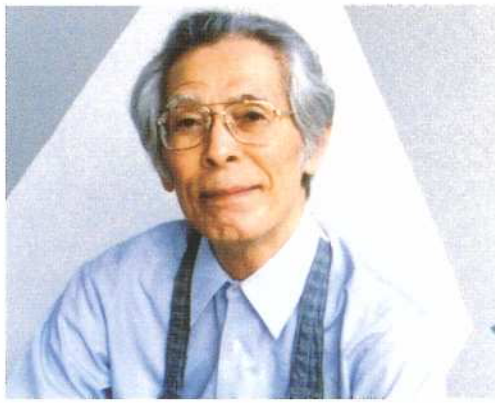
MAEZAKI TAIJI KIYOKAWA NON-OBJECTIVE PURE ART HOUSE

御前崎市

清川泰次芸術館

市民ギャラリー





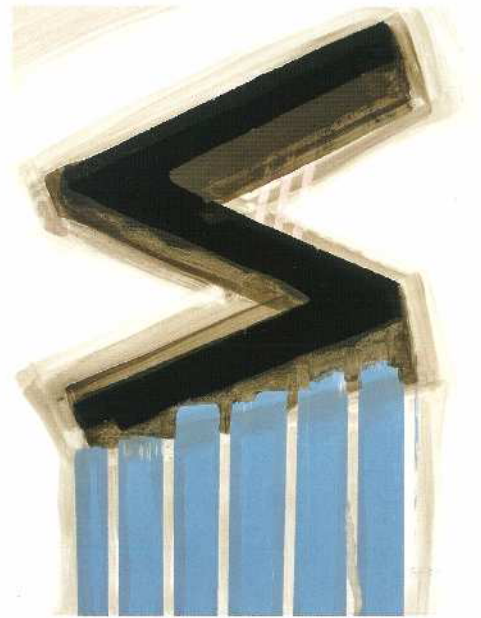
## 清川泰次 (美術家)

きよかわ・たいじ  
 (1919~2000) 浜松市生、  
 1949年より東京都世田谷区成城の  
 アトリエにて制作。

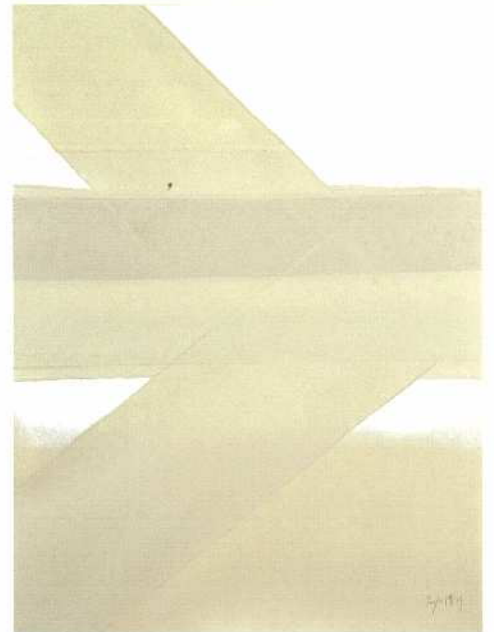
### 略歴

1944年慶大卒、後、抽象画家としてアメリカ、ヨーロッパ、アジアを歴訪、在外生活7年、特異な純粋絵画を内外で発表、二科賞1951年、安田火災東郷青児美術館大賞1983年、作品が永久保存品となっている美術館にニューヨークのゲーゲンハイム美術館、リンカーンセンター・デビス美術館、サンフランシスコ近代美術館、東京国立近代美術館、国立国際美術館、神奈川県立近代美術館、浜松市美術館、京都国立近代美術館、安田火災東郷青児美術館、世田谷美術館、原美術館、埼玉県立近代美術館、静岡県立美術館、等に100号、200号、1000号等の大作がある。又、慶應義塾大学等公共施設に絵画、彫刻を飾る。浜松市天竜区玖延禅寺に共同納骨堂を建立寄進。日本最大の観光バスにデザイン画、装幀、装飾、陶器、ガラス器、布、紙、石、木、金属等にデザイン。著書に美術出版社等より出された「絵と言葉」、「絵と心」、「バリの裏街」(石井好子と共著)、「白の世界」、「僕のノート」、「清川泰次の世界」、清川泰次画集「我が青春」、画集「色」、画集「平面と立体」、画集「作品と言葉」、「清川泰次美術館収蔵作品画集」、「芸術とは何か」等がある。1995年5月「御前崎町清川泰次美術館」完成。1958年以後どこの会にも所属せず、個展発表主義を続ける。2000年8月死去。2003年清川泰次記念ギャラリー(世田谷美術館分館)開館。

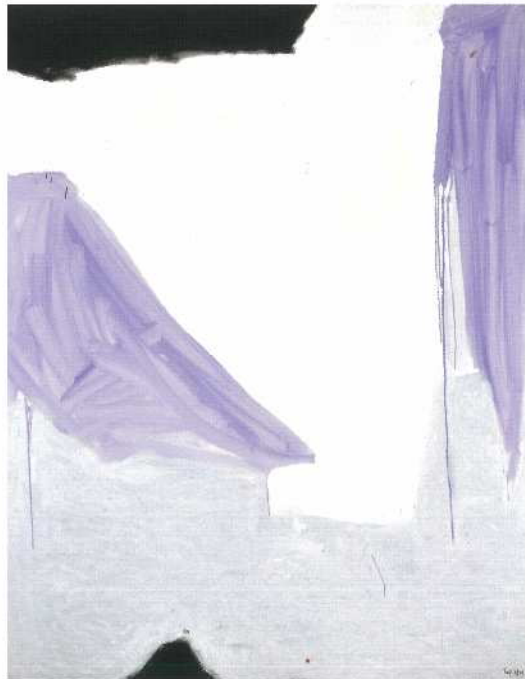
私は絵の中に物語りや「もの」を  
 写し入れることをしない。  
 いつも、自由な線と色と面の構成で  
 今だかつて見たこともない美を  
 創り出すことに感動しつづけて、  
 制作を続けている。



「Painting No. 全 OM794」 72.7x54.5cm(全紙)  
 Acryl on Paper 1994年



「Painting No.5288」 72.7x54.5cm(全紙)  
 Acryl on Paper 1988年



「Painting No.862-3」 162.1x130.3cm(F100)  
 Oil on Canvas 1962-3年



## 市民ギャラリー

